

事例紹介

たまつくり  
茨城県行方市立 玉造中学校

自ら選び集中力アップ  
～「楽しみ」を「力」にかえる～



玉造中学校では、「確かな学力」「強い心」「強い体」の育成を目指し、様々な活動に取り組まれています。今回は3年生の数学の授業、単元のまとめでのドリル学習の様子をご紹介します。

授業 授業も eライブラリも自分で選ぶ！

● まずはクラスを選ぼう！

この日の授業は「平方根」のまとめ。教室に一度集まった後、生徒の判断で習熟度別に2つのクラスにわかれます。「平方根は得意だから」「平方根は自信がないから」など生徒自身で考えて、クラスを選び授業に臨みます。それぞれのクラスに先生は一人、坂本 俊一先生のクラスは15名の少人数で授業が始まりました。



▲ 2クラスにわかれます



授業のはじめに「終わり10分でeライブラリをやるよ」と伝えると「やったー！」の声。eライブラリを楽しみにして、声には出さないがやりたいと思っている生徒も多いとのこと。

導入で生徒の興味関心をひき、教科書、デジタル教科書などで授業を進め、残り10分でeライブラリのドリル学習に取り組みます。

● eライブラリの問題を選ぼう！

残り10分、坂本先生の合図で、楽しみにしていたeライブラリの時間が始まりました。生徒たちは自分で平方根の問題を選び、自分で難易度も選んで進めていきます。

「eライブラリの一番のメリットは自分で選んで進められる点。自分で選ぶことで、楽しめて集中して理解度も上がります」と坂本先生はおっしゃいます。



《集中できるから続けていこうと思える》

初めてeライブラリを利用したときから、生徒たちはとても集中していたため、継続して利用しています。普段は学習に関心を持ちにくい生徒もeライブラリでは自分で問題を選び、何十問も解いて集中力を発揮しています。すぐに正解・不正解を確認できること、たくさんの100点が獲れることは、生徒たちの達成感にもつながっています。



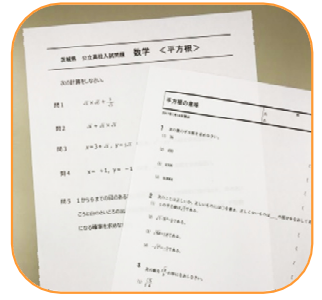
学年主任  
坂本 俊一 先生

## 運用 ICTの特長を活かす

### ● eライブラリで先生の問題解決！

先生方は今まで難易度別にプリントを作成していましたが、その生徒に難易度が合っているか、そして作成時間の問題などを抱えていました。しかし、**難易度は生徒自身がドリル問題を選べることで解決。プリント作成時間は、eライブラリのプリント教材で必要な問題を検索して編集ができるため、短時間ででの作成が可能となり解決**されました。

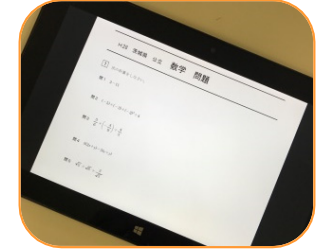
編集されたプリント▶



### ● プリントも紙だけではない！

授業でドリルを終えた生徒は、eライブラリのプリント教材をタブレットで見ながらノートに解いていました。印刷しなくても利用できるなど、様々な活用方法を模索しています。

タブレットに映されたプリント▶



## 今後 生徒の力を引き出す授業を目指して

### ● 生徒たちに変化が！



数学に苦手意識を持つ生徒がいるため、坂本先生は「**数学は苦手だけど授業は楽しい！**」と感じられる授業を目指しています。eライブラリが良いアクセントとなり「**もっとeライブラリをやりたい**」と思う生徒が増えている今、「**授業が楽しい**」が実現されつつあります。

行方市教育委員会 学校教育課 指導室 指導主事 石川 英樹 先生  
 学校教育推進グループ 岡部 直樹 様 のお話

### 《今後の取り組みについて》

ICTの整備に関して、今後タブレット台数を増やすとともに、先生方が常に利用できる（使いたいときに使える）環境や、見通しを立てて利用できる（二週間後、三週間後にも使える）環境を整えていきたいと考えています。そしてこの**先生方にとって整った環境が結果として、子どもたちの学力向上につながる**と期待しています。

次にタブレット（その他ICT機器含む）を使った授業について考えると、子どもたちがタブレットに慣れるより前に「教材」の面白さを伝えなければなりません。

仮にタブレットに強く興味があった場合、タブレットに慣れてしまうと、今まで通りの授業では興味が薄れ、顔が上がりなくなるかもしれません。このことから**伝えるべきは「教材」の面白さであって、道具であるタブレットの面白さではありません。**

「教材」の面白さを子どもたちに伝えるには、道具である**タブレットの使い方**も重要です。**使うべきところで使ってこそ効果を発揮する**からです。今後もタブレットを含めたICTの特長を活かした使い方の研究や研修を繰り返し、実践例を集め、魅力ある授業を展開していきたいと思えます。



（左）岡部 直樹 様 （右）石川 英樹 先生